

第3回 岡山県総合教育会議 議事録

1 日 時 平成27年8月7日（金）＜開会：10時、閉会：10時40分＞

2 場 所 県庁3階第1会議室

3 出席者 知 事 伊原木 隆太
教育長 竹井 千庫
教育委員 田野 美佐 梶谷 俊介 中島 義雄
松田 欣也 上地 玲子

4 協議事項に係る出席者の発言

岡山県教育大綱案（意見聴取結果反映後）について

【知事】

これより、平成27年度第3回岡山県総合教育会議を開催する。

第2回会議のご意見をもとに作成した岡山県教育大綱案について、パブリックコメントを実施した。本日は、そのパブリックコメントや県議会などの意見を踏まえた大綱案について、ご協議いただいたいと考えている。それでは、事務局から説明する。

【事務局】

それでは、意見聴取結果反映後の教育大綱案についてご説明する。

前回の会議でのご協議を踏まえて策定した大綱案について、参考資料1のとおり、6月県議会などで多くの意見をいただいた。また、参考資料2のとおり、6月4日から7月6日までの間、パブリックコメントを実施し、30名の方から45件のご意見をいただいた。これらのご意見等を反映して作成したのが、お手元の大綱案である。今回修正した箇所については、アンダーラインを引いている。

1ページ、今回、新たに前文を付け加えている。これは、県議会等での岡山県らしさや知事の教育への強い思いをもっと前面に出してもいいのではないかと、というご意見も踏まえ、大綱策定に当たっての考え方をより分かりやすく、明確にお伝えするため追加したものである。

内容は、我が国初の庶民学校である閑谷学校の開設や、江戸時代の私塾の数が全国第1位であったことなど、教育県として知られた本県教育の歴史に触れながら、現在、暴力行為などの問題行動や不登校が増え、学力面が低下するなど、教育環境が厳しい状況にあることを踏まえ、郷土岡山を愛し、本県の将来を担う人材を育成するため大綱を策定し、教育県岡山の復活を目指すこと明記している。

また前文を設けたことに伴い、第1の「大綱の趣旨」を「大綱の位置付け」と変更している。

3ページ、パブリックコメントのご意見を踏まえ、「1 学力及び学習環境等について」の項に、学力向上に向けた取組として、「ICT化の推進」を追加した。

4ページ、「5 生涯学習等について」の項では、「社会への参画」から「社会へ貢献」と、表現を変更した。

7ページ、3ページで「ICT化の推進」を追加したことに関連し、「子どもたちの学力が伸びる仕組みづくり」の項で、「ICTの利活用など新たな手法も取り入れ、基礎学力の定着を図る」ことを追加した。

最後に9ページ、県議会、パブコメからご意見を踏まえ、「主権者教育の推進」を追加し、社会づくりに積極的に参画する人材の育成を強調する観点から、もとの「郷土愛、社会に貢献する態度の育成」という項目を「郷土愛の醸成」という項目と、「より良い社会づくりに参画する人材の育成」という2つの項目に分けた。

以上が、意見聴取結果を踏まえ変更した部分である。

【知事】

意見など順次発言をお願いします。

【教育委員】

パブリックコメントは、教育関係者の方が多いため、いろいろな関係の方々に聞いた方が、違う意見があったのではないかと思った。

【知事】

パブリックコメント全般について言えることだが、広く意見を伺いたいのだが、普通の人あまり「パブリックコメントを求められているから書こう」ということにはならない。その分野の人は大変気になっていることは多い。パブリックコメント全般についての今後の課題だ。コメントを読んで、どういう立場の方の話なのかを考えながらやっていきたい。

【教育委員】

全体的には、本当によくまとまってきたと思う。

ただ、先ほどの意見のとおり、パブリックコメントの内容を見ると限られた人たちの話が多いようだ。やはりいろいろな方へヒアリング、あるいは、こちらから出掛けていって話を聞くようなことも少しやっていかないと、本当のパブリックコメントにならないと思う。

私自身も今、県でどうパブリックコメントを求めているかを、はっきり言って見ているわけではない。実際こういうことをやっていることを知らさないといけない。それから、場合によっては聞きに行く、こちらから出て行っていろいろな人の主立った意見を聞くということも必要かと感じた。

ただ、内容については、ある程度まとまって、非常によかったと思う。

【知事】

私自身も、パブリックコメントということがあって、大事だということぐらいは、知事になる前から知っていたが、実際、何のパブリックコメントがいつからいつまであるのかということは、普通に新聞を読んだり、ニュースを見ているだけでは入ってこない。よほど何か県のホームページを毎週見ている、そ

れもかなり隅から隅まで見ている人でなければ、この限られた期間にパブリックコメントがあるというのは分からない。結局、それについて非常に感心の高い、その分野の人からしか意見が入ってこない。お話のとおり、出て行き意見を聞くというのも大事かもしれない。

【教育委員】

私も、このパブリックコメントのことについて考えていて、もうすぐ18歳の子どもたちが選挙権を持つようになるので、こういったことについて、高校生に意見を求めてみてもよかったと思った。

これはこれで非常にまとまっているので、今後は子どもたちに社会人としての意識を根付かせる意味も含めて、子どもたちを交えたこの大綱についての取り組みについて、具体的にどうするのかという意見も、当事者に聞いてみてもいいのではないかと思う。

【知事】

当事者に聞くのは、現場に行くというのと同じぐらい大事なことだ。

【教育委員】

前文が加わり、岡山らしさや教育県岡山への復活という、知事の本当に強い思いをととても理解することができた。

その中で、前文に1670年からのくだりが加わっているが、明治までの偉人なり教育県というようなことが記載されているが、近年の実情がない。近代史が、明治からいきなり現況へというところで、若干タイムラグがある。昔はととてもよかったが、今は非常に悪いので、何とかしていかないといけないということはいくぶん理解できるが、もう少し近代の、昭和なりのところの記載があってもよいと感じた。

それと、全県的な大綱の位置付けということでいくと、山田方谷や緒方洪庵という備前・備中を代表される方々の記載があって、エリア的に美作の箕作阮甫がここへ入ってくると、全県対応の記載になるのではないかと思う。

【教育委員】

私も前文のところ、何となく美作が抜けていると感じた。ある程度エリアを入れておいたほうがいいのではないかと思う。

津山洋学資料館も、全国的に定評がある。

あと、パブリックコメントは、教育の大綱なので、やはり教育関係者だけではなく、いろいろな人に影響していくものなので、もう少しテーマに応じた意見を聴取することを、今後、気を付けていかないといけないと思った。

【教育長】

私は、実際の教育を推進していく立場で、大綱についてはこれまでもご意見を申し上げ、盛り込んでいただいていたかたちになったと思う。

昨日、国で学校基本調査の発表があった。長欠・不登校の問題は、5ページに具体的な対応として、「不登校問題への対応」という項目がある。今、学校現

場の話を知っていると、不登校は、家庭での生活習慣が非常に厳しいとか、わけもなく休んでしまうとか、無気力ではなく何となく休んでしまうとかだ。要するに、学校の魅力がなくなっているのかもしれないが、そういった面で、スクールソーシャルワーカーの家庭への働きかけや登校支援員といったことを今やっている。問題が出た時にこの大綱を読んでもらうと、きちんと位置付けられていると思う。

先日、職員の不幸事もあったが、県民の信頼を勝ち得るためにも、やはり学校の教員の指導力の向上、学校の体制強化をしていくこと、もちろん我々が襟を正していかないといけないわけだが、そういった面も書いてあるので、我々としてはこの大綱をこれで固めていただいて、今度はその大綱を基に教育振興基本計画を作っていきたい。

そうしたときに、このパブリックコメントに出されている方法論的な意見や、今、教育委員の方から出された18歳の選挙権関係で高校生の意見を聞いてみるとかは、振興基本計画を作成する中で参考にしていくのも一つの方策かと思っている。

私は、これでまとめていただいて、次の段階に行きたいと思う。

【知事】

一通り、皆さまから意見を伺ったが、まず全般的にはよくできている、もしくはいろいろな方の意見を取り入れられているので、大きく変更する必要性を感じないというコンセンサスが得られたと思っている。

後は、パブリックコメントがその本来の機能を果たしているのかという問題、教育と普段関係ない人たち、それからまさに教育の受益者である学生の意見を聞くべきなのではないかということについては、教育長からのご意見で、これから教育振興基本計画をつくっていくとき対応するという事だ。大綱はむしろ理念であり、それぞれの具体施策のところ、そういう意見をぜひ反映させていく。

大綱の理念については私が責任を持って書いてきているわけだが、私自身、自身の選挙活動を半年強、1年弱、普段の仕事を全くせずに皆さんとの意見交換、全県回って毎日アンケート調査をして歩いたような日々だった。そうしたことや「生き生きトーク」、市町村長さんとの意見交換会など、普段の仕事がほぼ全て皆さん方の思い、意見、考え方、不満を酌み取る作業と言い換えてもよい。そのうちの半分とは言わないが、少なくとも2割、3割は教育に関する事で、それを通じて、随分皆さん方の思いはこういうところにあるということ、むしろ教育関係者の方にお伝えしてきている。その作業は、これからも続けていく。いかに民意というか、現場の実感と外れない大綱であったり、基本計画であったり、個々の施策にしていくかが本当に大事だと思っている。

具体的な修文要請に対応したのは、この前文だ。本当にいろいろな方から、「岡山県」というところを別の固有名詞にしたら、すぐにほかの県の大綱にな

るのではないかと言われた。私自身は、岡山県の状況のいろいろ悔しいところもしくは誇らしいところがあるにしても、同じ国の中でやっていることなので、ほかの県と根本的には違わないと思う。ただ、思いに関して、この前文で表現することはいいことだと思う。皆さま方からも広い意味でご賛同いただいて、ありがたく思っている。

確かに、私は、実は山田方谷がどこの人で、緒方洪庵がどこの人か、言われればそうだなとは思ったが、それを関連付けてバランスを取るという発想がなかった。ここに10人並ぶと長過ぎるなどは考えた。確かに、津山を中心とする県北の洋学、蘭学は、岡山県が誇るものである。『解体新書』などは、全部江戸でやったように思われているが、本当に岡山の、しかも県北にすごい系譜がある。それが、岡大医学部につながっていると私は信じている。この箕作阮甫というのは、挿入する有力候補として事務方で検討させていただく。

【教育委員】

そうなると、全部江戸時代になってしまう。明治・大正・昭和ということにはならない。

【知事】

でも、源流がそこにあるということ。ここで別に岡山県の教育史について詳細に述べているつもりはない。要するに、30年、50年の話ではないということ言えばよいと思う。近代史が抜けているのではないかとのご批判と地理的なバランスが悪いのではないかとのご指摘のうちの、後者のほうには必ず応えさせていただく。

それ以外で、大綱に関するご意見、特に修文があったらこの機会にお願いする。また、今後の教育振興基本計画を策定するに当たっての考えは、こうあるべきなのではないかということや、この数日の岡山市と県教育委員会で不祥事があったことについて、もしご意見・ご感想、もしくは、何か全般的なご意見があったらお願いする。

【教育委員】

私は、普段は普通の母をしている。この大綱のことなどは、やはり普段の生活ではなかなか浸透していかないで、こういうことを岡山県でやっているということを、この全部を出すとはぶん難しくて分からないと思うので、やはり今の教育、小学校・中学校・高校に関係ある部分だけでも、今こういうことをしている、こういう政策をしているので、ここから振興計画もつくるという流れなどを分かりやすく説明して、一般の県民の方に知らせていくことが大事なのではないかと思う。せっかくだいいものを作っているのだから、それをやはり知ってもらおうことが、教育県岡山になるための第一段階であるという気がする。

【知事】

そのためにも、こうやってカメラに入っている。大変ありがたい。

【教育委員】

皆さんおっしゃる通りで、やはりせっかくつくった大綱なので、これを広く知らしめるといのは大事だと思う。もちろん作る段階でもいろんな人の意見を聞かないといけないが、一回作ったらおしまいではなく、これを実現していくために作っていく振興計画の内容を含めて、やはりきちんと「岡山県はこういう教育を目指す」ということをいろいろな方に知っていただくことが大事だと思うので、そういう活動をぜひやっていただきたい。

【知事】

よく、県は成績順位一辺倒なのではないかと言われる方には、ぜひこれが出来上がったら読んでいただきたい。我々が目指している理想像は、随分そういったこととは違う。基本目標「心豊かに、たくましく、未来を拓く」人材を育成するという、その一文だけでも広く皆さんに知っていただきたいと思う。

【教育委員】

またそれに対しても、いろいろな意見が出てくる。それをぜひ集めていければと思う。

【教育委員】

私も、これをどうやって実現していくかだと思う。市町村との連携とか、幼稚園から高校までの縦の連携を具体的にどんなふうに進めていくのかが大事なところと思っている。その先にちゃんとした社会人が育っていくわけだから、ちゃんとした社会人がたくさん増えればいろんな不祥事もなくなっていくだろうし、やはり小さいうちから一貫した方針できちんと教育をしていく、どんな子どもこぼれ落ちないようにできたらいいと思う。

【知事】

分かりました。

【教育委員】

大綱ができて、これから具体的な振興計画を我々がしっかりと詰めていかないといけないと思っているし、改めて幅広く意見を聞いて、そのことによって更に周知ができていけるようにしていかないといけない。やはり無関心が何より怖い。教育県岡山県の復活のためには、数多くの県民の方々が教育に関心を持っているという姿が何よりだと思う。振興計画を作り、具体的なことを練るときに、少しでも多くの方に参画いただくような土壌を作っていくかと思いません。

【教育委員】

「参画」を「貢献」に変えたところだが、本当に「貢献」がいいのかという感覚がしている。

「参画」というと、社会のいろいろなことに自分が主体的に関わって、「貢献」だと社会に関わらなくても自分が何かやればいいという感じがする。「参画」を「貢献」に変えた意図をもう少し明確にしてもらえるとありがたい。

自分が社会のために役立つという「貢献」より、私は、かえって「参画」の方

がいいのかと思う。

【知事】

その理由は。

【教育委員】

いろいろと講座で学び、知識を身に付けた時に、それを実際に自分が社会に参画して動かしていこうとする時、ただ単に参画する場がないのに、貢献しなさいという、地域に参画しなくても、自分が何か貢献することをやればよいと取れると思う。まずは、行政側が「参画」する機会を作った方がいいのかと感じた。どういう議論があって「貢献」になったのか。

【知事】

私は、この変更案を示された時に、よいと思った理由は、「貢献」というのは、そのベースとして「参画」があり、一步進んだ形だと考えたからだ。

今の委員の話では、「貢献」と「参画」というのは別のかたちが十分あり得て、参加しないのに貢献、例えばお金だけ払うみたいなこともある。確かに、言われるとおりでである。私にとっては参画、参加というのは大前提である。私のイメージは、何かの集会に誘われて、取りあえず行くだけでも参加にはなるが、そこで意見を言ったり、取りまとめたり、ほかの人を誘ったりすると、参加・参画よりも少し貢献という感じになり、自主的に参加するとか、主体的に参加するというのが、むしろ「貢献」という言葉のイメージに近いと思った。それぞれの方ごとにそれぞれの言葉に対するイメージが違う。ただ、皆さんもたぶん「貢献」と言うときには、参加しなくて貢献すればいいと思う人はむしろ少ないかと思うが、いかがか。

【教育委員】

結局、「貢献」というのは最終的なかたち。つまり、「参画」とか「参加」とかといういろいろなかたちを通して、最終的に社会に「貢献」という、目指す姿というイメージがあった。私としては修正という打診があったときに、そのため、賛成をした。

【教育委員】

個人的な感覚としては、「貢献」と書かれると、やっぱり貢献することを前提にというふうに捉えてしまう。ある意味、私は社会に関わっていくというイメージの方が近かったので、「参画」のほうが近いと思った。ただ、別に「貢献」で悪いわけではないので、特に反対はしなかったが、そう言われると、どっちかと言うと「参画」のほうが私のニュアンスには近いかという気がする。

【知事】

日本語の場合「貢献」というと、すごい貢献、身を犠牲にしてみたいなところまで含んでしまうが、私は感覚的には、この「participate」というのと「contribute」ということでは、そこにただでも participate だけど、もう少し関わると contribute だよなと思う。「貢献」というと、激しいところまで含んでしまう

のかもしれない。私とすれば、「参加」というものを「積極的に参加」というのに言葉を変えたぐらいの印象でこのように修正させていただいた。ここについて、私もこだわりがあるわけではなく、「ぜひ、どんどん出掛けて行ってね」という意味である。たぶん、そのことについては皆さん方も異議はなくて、具体的にどっちの言葉のほうが好きというぐらいのことかと思う。

【教育長】

私は高校生に、卒業までに1週間以上の社会貢献活動をすすめ、社会に貢献する態度を育成しようという教育を推進していきっているので、「参画」を通り越して、結果として「貢献」できる、そういう人づくりという面から言えば、「貢献」のほうがいいのかと個人的には思う。

【教育委員】

私は、個人的に言うと「貢献」だが、本当は「参画」できる場をどれだけ作っているかということに意味があると思う。要するに、学んだ人に参加してくださいという場を設けて来てもらうのか、そういう場があまり設定されていないのか。学び続ける機会はあるが、この人材がその地域で活躍する場合、学習成果を生かして社会へ「参画」する場を作ることが必要ならば、「参画」だろう。例えば地域の課題を一緒に解決するために意見を言うだけではなく、さらには自ら動いてやりましょう。要するに、誰かが決めたことにただ従っての「貢献」ではなく、自ら意見を言って自分も行動していく、そんな意味での「参画」というイメージがあったので。どちらでもいいが、趣旨は一緒だと思うので、あとはお任せする。

【知事】

この文の構造は、「機会が提供されてきましたが、研修講座で育った人材が」の後がパラレル、重構造になっていて、「地域で活躍する場」と「社会へ貢献できる機会」が十分あるとは言えないと書いてある。

これからもっとプロモートしましょうということ言えば、人材が「地域で活躍する」というのは、たぶん参加するという意味を含んでいて、後ろのほうが、それプラスもっとお返しをしていくということなので、「参画」に戻すと、少し言葉を変えて同じことを言っていることになるのかと思う。だから、もし「参画」という言葉を絶対残したいのだったら、「活躍」の部分が「地域活動に参画する場や」ということかもしれない。結論としては、これは「貢献」でもいいのではないかと感じる。

【教育委員】

「参加」と「参画」では全然違うと思う。「参画」は、自らが普段主体的にかかわって動かしていく。「参加」は、どちらかというと受動的だと思う。

【教育委員】

それを踏まえて、10ページの5-(1)の真ん中辺りに「さらに、学びを生かした地域活動への参画を通して、よりよい地域社会を形成し……」と記載があり、現状と課題のところでは、活躍とか貢献となっているのではないかと思う。実際

には、さっき言った行政として参画できる場をつくっていくというようにトータルで読めば対応できるのかと思う。

【教育委員】

これでよい。後は、この教育大綱をより多くの人に参画していただきながら、具体的な答えを出していくことが大事なのではないかと思う。

【知事】

そうですね。

【教育長】

私は、これで確定をしていただいたら、できるだけ早期に市町村の教育委員会へ周知したいと思っている。いずれにしても、これは小中学校、あるいは幼稚園等々のことが書いてあるので、市町村の教育委員会の理解と協力がないとできない。まだ策定途中のところも結構あるから、そういったところでしっかりやっていきたいと思う。

【知事】

私は作ったけど魂を入れないと意味がないように、この教育大綱はよくできているが、これも全くその通りである。けなして言えば、きれい事を書いただけで、それはまとまるよなと思われる方もいると思う。また、教育については、5人いれば5人意見が違うという現状の中で、こういう一つの表現にまとまり、基本的な大綱ができたということは、私は非常に心強いと思っている。皆さんの中にも細かいことについてはいろいろあるが、でもこうあってほしいという思いについてはかなりかぶっていることが、この大綱を作る過程で確認できたと思っている。

どんなものでも細部に入れば行くほど意見が食い違ってくるが、諦めてしまうのではなく基本に戻るように、最後は憲法に戻って審査するのと同じく、この大綱に戻ってこられる。大綱案について、皆さんに納得していただくものができたのは、私は非常に意味があることだと思う。

皆さま方、最初の骨組みのところから参画をしていただいて、本当に感謝している。これからこれを基にして振興基本計画をはじめ、具体的な施策を作ることになる。その主体は、私よりもむしろ皆さままで方あり、ぜひともよろしく願いたい。

では、この岡山県教育大綱案について、細かい字句修正については私どもがさせていただくが、ご同意をいただいたということでこれを基本に大綱をつくっていきたいと考えている。

今後のスケジュールについて、事務局のほうから説明する。

【事務局】

本日の会議のご意見を踏まえまして、最終調整をし、知事の決裁により8月中に大綱を決定したいと考えている。

【知事】

以上で第3回総合教育会議を終了する。